

野田市立図書館及び野田市コミュニティ会館指定管理者候補者 選定委員会（フォローアップ）会議録概要

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 平成31年2月6日（水）午前9時30分から午前10時20時まで |
| 開催場所 | 野田市役所5階 512会議室 |
| 出席委員 | 総務部長（副委員長）、企画財政部長、行政管理課長、管財課長、市民生活部長、生涯学習部長 |
| 欠席委員 | 副市長（委員長） |
| 事務局 | 興風図書館、市民生活課、行政管理課 |

1 開会

<副委員長から開会の言葉>

2 議事

(1) 平成30年度(4月～12月)野田市立南図書館、北図書館、野田市南コミュニティ会館及び北コミュニティ会館業務報告書及び平成31年度野田市立南図書館、北図書館、野田市南コミュニティ会館及び北コミュニティ会館業務計画書の審査について

<事務局から平成30年度(4月～12月)野田市立南図書館、北図書館、野田市南コミュニティ会館及び北コミュニティ会館業務報告書及び平成31年度野田市立南図書館、北図書館、野田市南コミュニティ会館及び北コミュニティ会館業務計画書について一括して説明>

<審議の概要>

- 業務報告書55ページの事故、要望又は苦情の対応状況の北図書館及び北コミュニティ会館に記載されている5月22日（火）利用者からの電話について、震度3の地震発生アナウンスは、利用者にとどのような対応を求めるものだったのか。
→ 大きな地震の発生時には棚からの本の落下が想定されるので、震度がわからない段階でも大きめの揺れを感じたときは即座に、カウンターにいる図書館スタッフから利用者に向けて、大きな声で「棚から離れてください」と注意喚起のアナウンスをしている。5月22日の地震発生時にも、結果的には震度3であったが、同様の注意喚起のアナウンスを行った。
- 館内放送ではなく職員の地声で声掛けを行ったのか。
→ そのとおりである。
- 震度に応じたアナウンスということではなく、揺れを感じたら棚から本が落下するおそれがあるため、棚から離れてくださいという一律の声掛けを行っているということか。
→ 安全確保のために行っているものである。

→ 市内図書館の館長会議でもこの件を議題にし、聞き取りにくかったということであったため、声掛けの際は大きな声で行うよう再度指導した。

○ 業務報告書39、40ページの人員配置について、必要な人員は確保できているのか。また、全員契約社員だが単年度契約なのか。継続状況はどうか。

→ 南図書館、北図書館ともに必要な人員は確保している。また、スタッフが有給休暇を取得したときや、外部研修を受講した際も、支障なく現場業務を行っている。また、雇用契約については、単年度契約として入社するが、勤務年数5年を経過すると無期雇用契約となる。30年度において南図書館3人、北図書館4人が無期雇用契約であり、31年度は新たに南図書館3人、北図書館4人が無期雇用契約となる。

継続状況については、南図書館は、勤続年数が最も長いスタッフで13年、平均でも5.1年と多くのスタッフが継続して勤務している。北図書館は、勤続年数が最も長いスタッフで13年、平均でも5.3年と多くのスタッフが継続して勤務している。また、南図書館、北図書館ともに、ほとんどのスタッフが来年度の継続勤務を希望している。

○ 事業計画書17ページの管理経費縮減のための取組の消耗品費について、スマートフォンを利用した勤怠管理の方法は具体的にどのようなものか。

→ 入社時に全スタッフに勤怠用のQRコードが配布され、各スタッフは、出勤時館に各図書館に置いてある会社所有の勤怠管理用スマートフォンの専用アプリを起動させて、自分のQRコードを読み込ませる。退勤時も同様に行い、そのデータを基に、各図書館に設置されている会社所有のパソコンにて専用勤怠管理システムにより勤務時間などの勤怠管理を行っている。

○ タイムレコーダーの役割として各図書館に勤怠管理用のスマートフォンが1台ずつ置かれているのか。

→ そのとおりである。

○ QRコードは各職員が持っているのか。

→ QRコードは職員ごとにカードになっており、それぞれの職場に置いてある。

○ システム的にはタイムカードと同じものか。

→ 基本的には同じものであるが、データはクラウド上に保管され、勤怠管理システムにより、各図書館の職員勤務時間等が各図書館や本社で即座にわかるようになっている。

○ 事業計画書4ページから11ページまでの施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであることについて、31年度に新たに計画している事業やイベントはあるか。

→ 南図書館、北図書館ともに、現時点では事業計画書に記載のない事業やイベン

トの予定はないが、利用増や新規登録の促進等に役立ちそうなイベントの発案があれば、実務者レベルで検討し実施可能なものは実施するように努めていく。

○ 事業計画書に記載のある事業の中では、新たなものはあるのか。

→ 現時点においては新たな事業はない。

○ 事業報告書67ページの南図書館の利用件数の貸出冊数などを見ると、29年度に比べて減少しており、年々減ってきている。今後、利用を増やすに当たって既存の事業をどう展開して利用者を増やしていくのか。

→ 市全体でも毎年利用者は千人規模で減っている状況である。本の売上も全盛期と比べると半分以下になっている。逆にスマートフォンやタブレット端末で閲覧できる無料アプリが出来たり、少額な課金で雑誌を購読できるようになったりして、これまで図書館で雑誌類やコミックを読まれていた利用者が、そちらに流れてしまっている状況が見受けられる。現在行っている事業は図書館を会場にして行うものが多く、大人数を対象にすることがなかなかできないため、細かい事業の積重ねとはなってしまうが、そのような事業を通じて図書館を利用されている方への支援を行っていきたいと考えているが、近年の減少傾向を止めることがなかなかできないというのが実態である。

○ 事業報告書67ページの利用件数のレファレンス件数は、29年度に比べて大きく増えているが、何か増える要因があったのか。

→ どのレベルでレファレンスとして捉えてカウントするかという考え方が図書館によって曖昧な部分があったため、興風図書館、せきやど図書館を含めた4館でレファレンスの基準を統一したことにより、29年度と比べて増えたものである。

<審議の結果>

平成30年度(4月～12月)野田市立南図書館、北図書館、野田市南コミュニティ会館及び北コミュニティ会館業務報告書及び平成31年度野田市立南図書館、北図書館、野田市南コミュニティ会館及び北コミュニティ会館業務計画書について承認

(2) 平成30年度(4月～12月)野田市立せきやど図書館及び野田市関宿コミュニティ会館業務報告書及び平成31年度野田市立せきやど図書館及び野田市関宿コミュニティ会館業務計画書の審査について

<事務局から平成30年度(4月～12月)野田市立せきやど図書館及び野田市関宿コミュニティ会館業務報告書及び平成31年度野田市立せきやど図書館及び野田市関宿コミュニティ会館業務計画書について一括して説明>

<審議の概要>

- 運営状況調書1ページの総合所見について、個人利用登録者数が4パーセント程度減少しているが、本離れが進んでいるという状況の中で何か改善策はあるか。
→ 関宿地域の小学校について28年度と30年度の児童数で比べてみると、関宿中央小学校が11.4パーセントの減、二川小学校が9.3パーセントの減、木間ヶ瀬小学校が15.4パーセントの減となっており、児童の個人登録減の大きな要因は児童数の減少と考えられるため、児童の利用登録率を向上させることを目的として、31年2月に関宿中央小学校において図書館学校を実施して、図書館の利用登録をしていない児童に対して新規登録の勧誘を行う予定である。なお、29年度から実施している「保育所保育園児の図書館学校」においても、5歳児での新規登録を継続して実施する。
- 関宿小学校においては31年2月に図書館学校を実施するとのことだが、同じエリアの二川小学校や木間ヶ瀬小学校に対しても同様の取組を行うのか。
→ 30年6月に二川小学校においても2年生の2クラスを対象に図書館学校を実施している。
- 図書館学校は、対象の学校の児童を図書館へ来てもらって実施しているのか。
→ そうである。
- 図書館から学校へ直接出向いて何かPRするということを実施する予定はないのか。
→ せきやど図書館ではないが、南図書館及び北図書館では出前の図書館学校を実施している。それが好評であったので、今後せきやど図書館でも行っていきたいという考えはある。また、指定管理とは別の委託事業となるが、31年度は関宿地域のせきやど図書館から距離的に遠い小学校、中学校及び幼稚園を対象に、図書の貸出しや返却などの巡回サービスを行うことを計画している。
- 小学校を対象とした図書館学校と保育園児を対象として図書館学校の違いは何か。
→ 幼稚園は指定管理者が運営しているので、指定管理者の所有するバスで来館してもらった。また、幼稚園児は低年齢なので、説明や接し方は丁寧に行っている。
- 業務報告書3ページから24ページの施設の効用(設置目的)が最大限発揮されるものであることについて、せきやど図書館の事業やイベント等で、利用件数

増に効果があったものは何か、その内容についても伺いたい。

→ 図書館イベントの主たる目的は読書活動の推進であるため、実施した各種のイベントは効果の差はあるものの、いずれも読書活動の推進に寄与しているが、その中で特に利用件数増加に効果があったものは5事業である。

① 「本の福袋」

子ども向け及び一般向けの事業で、事業の内容は、普段読まないような本を手にとっていただく機会を設けることを目的として、利用者にどんな本が入っているのか分からない状態で提供する「本の福袋」を実施した。中身が見えない袋に図書館スタッフが選んだテーマを貼り、そのテーマに見合った本を入れて利用者に選んで借りていただいた。

② 「まわそう！がちゃマシーン」

図書館子どもまつり及び読書週間イベントとして実施したもので、事業の内容は、本を借りた子どもに対象年齢別（絵本・低学年・高学年向け）に設置した「がちゃマシーン」を回してもらい、カプセルの中に入ったタイトルの本をおすすめするイベントを実施した。

③ 「としょかんどくしょすごろく」

児童を対象に夏休み期間中に実施したもので、児童書を借りた子どもにくじを引いてもらい、図書館のカウンターで配布するすごろくカードに、引いたくじの数字分スタンプを押し、ゴールできたらプレゼントがもらえるイベントを開催した。

④ 「ぬいぐるみおとまり会」

児童を対象に実施したもので、図書館を利用している児童が自宅等で所有しているぬいぐるみを図書館に持ってきてもらい、ぬいぐるみと子どもが一緒の写真や、ぬいぐるみが図書館に泊まって夜に仕事をしたり、ぬいぐるみが自分の好きな児童書を読んだりしているような写真を撮り、ぬいぐるみを児童に返す際に、撮影した写真をアルバムに綴じてお渡しするとともに、写真に写っているぬいぐるみを読んでいた児童書を「あなたのぬいぐるみはこの本が好きなようだけど、あなたも読んでみる？」と児童に紹介して薦めるイベントを実施した。

⑤ 「こんな本、どうで書！？」

児童や中高生、成人を対象としたもので、事業内容は、タイトルや内容が見えないように本全体にカバーをかけて、そのカバーに図書館スタッフが考えたその本をお勧めする一言メッセージを添え、利用者はその一言メッセージを参考にして、気になった本を借りていただくイベントを実施した。

○ ほとんどが子ども対象のイベントということか。

→ 結果的に反応があったり、効果があったものは子ども対象の事業であった。成人へのアプローチはなかなか難しい状況である。

○ せきやど図書館へ行くと興風図書館に比べて成人の利用が少ない印象を受けるが、有効な手段はなかなか出てこないということか。

→ 関宿地域は合併まで図書館がなかった地域であり、また書店も現在はない状況なので、図書館を利用する習慣や機会が野田地域に比べるとまだ少ない状況である。

○ 長い目で見て、子どものうちから図書館に親しんでいただいて、将来的にはその方達が成人になってから図書館を利用していただくという理解でよろしいか。

→ そういうことを期待している。

○ 業務計画書36ページの(2)支出について、31年度に研修費121万1千円が皆増となっている理由は何か。

→ これまで研修費は支出報告において本社管理費の中に含まれていたが、指定管理の更新を機に、本社管理費から研修費を抜き出して明確にしたものである。

○ 30年度と比較して研修費の増減はどのようなものか。新たな研修を予定しているものはあるのか。

→ 30年度と同程度の研修が計画されており、現時点では新しい研修を行う予定はない。

○ 関宿地域の小学校で図書館の利用を増やすために事業を行うということだが、31年度から増員予定の学校図書館司書との職務の住み分けや連携はどう考えているのか。

→ これまで学校図書館司書が少なかったので、団体貸出しを行うにしても学校図書館司書との調整はなかなか難しく、実際のところは学校の先生方が対応していたが、31年度からは学校図書館司書と地域教育コーディネーター、せきやど図書館の職員が連携して図書の貸出しや返却業務、利用登録の手続きや登録促進などを行っていく予定である。それが根付いていけば、学校図書館司書と学校を巻き込んで、学校図書室とせきやど図書館の連携もうまくいくのではないかと考えている。

<審議の結果>

平成30年度(4月～12月)野田市立せきやど図書館及び野田市関宿コミュニティ会館業務報告書及び平成31年度野田市立せきやど図書館及び野田市関宿コミュニティ会館業務計画書について承認

3 閉会